

私のおすすめ

《椿姫》の魅力

守木詩織

図書

19世紀パリの社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタの愛と悲しい運命を描いたオペラ《椿姫》。今やイタリア・オペラの代名詞とも言える、巨匠ヴェルディの最高傑作の一つであり、私の大好きなオペラの一つでもあります。コンサートの定番曲としても有名な〈乾杯の歌〉など、オペラにあまり馴染みがない人でも、一度はその音楽を耳にしたことがあるのでは？

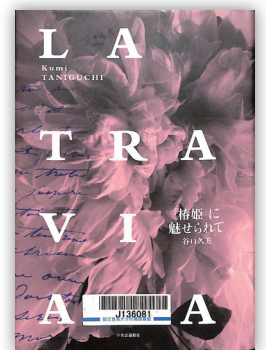
本書では、《椿姫》のモデルとなったマリー・デュプレシの生涯やヴェルディによるオペラ化の経緯、《椿姫》のアナリーゼなど、様々な角度から《椿姫》の魅力を描いています。

第1章「マリー・デュプレシが語るその生涯」では著者の谷口久美さんがマリーになりきり、その生涯を語ってくれます。まるでマリーの自伝を読んでいるかのように！マリーの生い立ちやクルティザンヌ（高級娼婦）としての生活ぶり、当時のパリの社交界やファッション、文化などを教えてください。これから《椿姫》を勉強しようとしている方にはまさにうってつけの内容です。もちろん、そうでない方にとっても楽しみながら読んでいただけること間違いなしでしょう。当時の華やかなパリ社交界や、信じられないほどの贅が尽くされた彼女の生活は本当に夢のようです。クル

ティザンヌとして、その美貌を武器に人生を謳歌しつつも、やがては病に身を侵され、孤独や恐怖と闘いながら生き抜くマリーの心情が語られています。

第2章ではヴェルディによってオペラ化されるまでの経緯、第3章では伝説の歌姫マリア・カラスと《椿姫》とのエピソードが書かれています。また、《椿姫》のアナリーゼも収録されており、こちらも大変分かりやすい内容になっています。

谷口久美さんはオペラ愛好家としても知られ、《椿姫》の素晴らしさを一人でも多くの、そして若い読者にも知ってほしいとの思いからこの本を出版されたそう。やさしく分かりやすい内容で、《椿姫》を観たことがある人はもちろん、まだ観たことがない人にも是非読んでほしい一冊です。



『《椿姫》に魅せられて』谷口久美著
中央公論新社 2019
請求番号●J136-081

もりき しおり(図書館臨時職員) ● 先日憧れの歌手の来日コンサートへ行きました。生で聴けてとっても感動…!



図書館公式Twitterの一年



昨年12月に図書館の公式Twitterアカウントを作成してからまもなく1年が経ちます。開館スケジュールや利用方法の案内をはじめ、これまでさまざまな情報を発信してきました。中でもTwitterならではの企画、「ワンポイント講座」と「バックヤードツイートシリーズ」は反響がありました。2つの企画について、これまでの内容と今後の見どころをご紹介します！

ワンポイント講座は、今年4月と10月に開催しました。4月は新入生をはじめとした学生の皆さんに国立音大の図書館を知ってもらうため、さまざまな図書館お役立ち情報を全25ツイート、約1ヶ月に渡って発信しました。10月は「いろいろな楽譜の探し方」というテーマで、楽譜を検索する際のヒントや便利な機能について、全10ツイートを発信しました。講座を全てチェックし、クイズに回答した方にオリジナルグッズを配布するというのも、初の試みでした。

講座をいつでも振り返れるように、ツイート内容は紙に印刷し、ファイルにまとめて館内に設置しています。今後も皆さんのニーズに応えたテーマで、講座を企画していきます。

講座は終了しています



バックヤードツイートシリーズは、7月より不定期企画としてスタートしました。普段は見られない図書館の中の様子をタイムラプス(コマ送り動画)で撮影して発信しています。

図書館の仕事はカウンター以外にもたくさんあります。特に当館は資料のほとんどが閉架式書庫にあるので、バックヤードの仕事がとて多いのです。

第1弾では、書庫での取り出しの様子を公開しました。OPACから請求された資料は、スタッフが一点一点正確に取り出し、確認してからカウンターに届けます。第2弾では未整理資料の箱開け作業を、第3弾では書庫資料の引越しを、第4弾では書庫階段の往來を、それぞれ公開しています。図書館のバックヤードには、膨大な資料をしっかりと保管し、利用者に提供するための工夫や仕組みがたくさんあります。今後はどんなバックヤードが見られるのか……ご期待ください！



上: 書庫での取り出し

下: 未整理資料の箱開け

